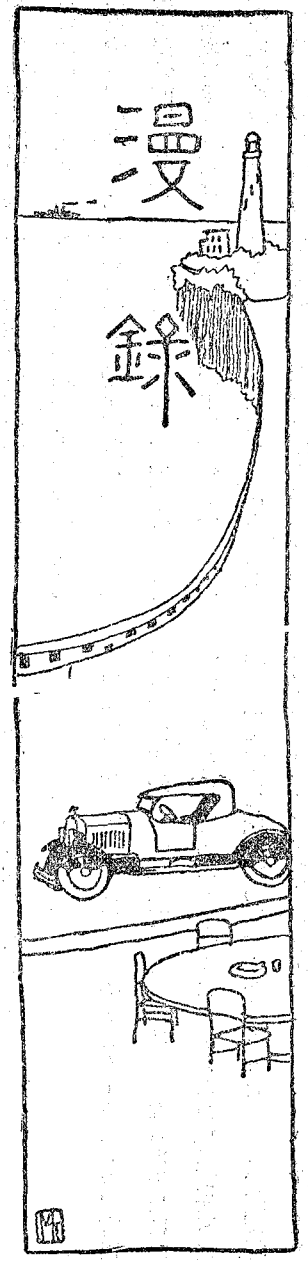


動いた路政關係の長官

一記者

○

人情大臣不知人情、イヤ乾分が無いから異動させやうとしても仕方が無かつたのだ、何ンテ惡口を叩く連中もあるが、政友會內閣末期の望月內相が、餘り地方長官の交迭をやら無かつたのは事實だ、政友會內閣が成立したときに腕の喜三郎大臣がやつた、あの大異動には隨分非難の聲があつて、當時在野民政黨の連中も無謀な無茶な交迭ぢやと、口穢く罵つたものだ、ところが世は走馬燈のやうに廻つて政權が民政黨の手に落ちた、すると是はドーしたものかあれほど人を非難したことをケロリと忘れたやうに地方長官

の大交迭をやつた、盗人にも三分の理がある世の中だもの色々の理由はあるであろうが、頭數で免官十六休職十二を數えるやうな大鉈を振つたのは空前のことだ。

本省の局長やら地方長官は事務官だ、政變あるごとに動かされる筋のもので無い何ンテ野暮な理屈を言つてみたところが、ことの實際はいつも夫れを裏切つてゐるから仕方が無い、政友會內閣のときに浮き上がつたものが民政黨內閣のときに沈んで行く、まるで井戸の釣瓶のやうに片が上がれば片が下がると言つた調子だ、頭を絞つて浮草の由來を研究する迄もない此浮沈が浮草稼業の實際を物語る、併し夫れが安達內相の言ふやうに地方政治を一新することゝ爲るかは別問題としても、兄弟が共謀して水利權を處分した例やら、政友會支部の爲に乘合自動車營業を許可した事例を眼の前に見せ付けられてゐる私共には、安達內相の言を卽座に斥けるだけの自信の持合せが無い、併し一片の辭令で此處彼處と漂ひ流れて行かなければならぬ俸給生活者——長官の躰にも爲つて見れば、浮草や今日は向ふの岸に咲く。ナンテ洒落てゐる問題では無い、政務と事務と公と私とを混同して人事を決した其の影響が、地方政治にドー波及するかと言ふやうなことを考へて見ると、地方政治の恒久性を蹂躙する重大問題とも考へられ、又夫れが地方長官生活上の不安定を齎し權威を傷付けることゝも考へられて、浮草稼業の常態ぢやと言つて濟まされない問題だ。

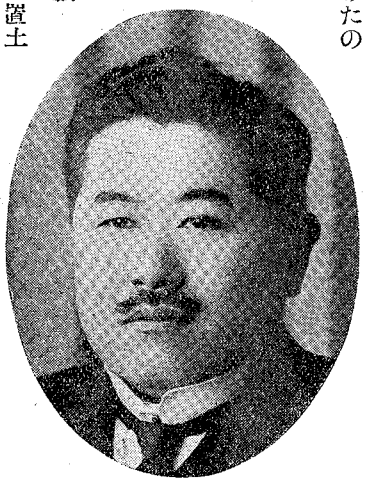
今次內閣交迭前後に行はれた地方長官の異動にも非難する多くの點があろう、併し夫れは言ふべき人が他にあろうから、私は唯だ路政に關係ある長官で動かされた人を筆して、榮轉した人々にはお祝言を、馘首乃至は左遷された人にはお悔を申上げる代りとしやう。

○

田中內閣が某重大事件で倒れやうとしてゐるとき、宮田警視總監が馬脚を表はして退官せなけりやならぬ破目に陷つた、後任は誰であろうと噂する暇さえない位に電光石火的に總監の任に就いたのは、本會理事社會局長官の長岡隆一郎氏であつた、內閣の運命旦夕に迫つてゐるとき、比較

的安定の地位である社會局長官の位地を捨てゝ、政府と運命を共にする警視總監に就いたことは、官界で疑問の焦點と爲つて色々と噂に花が咲いた、イヤ退官のときは勅選議員と爲る條件付だろう、夫れにしても學生時代から身を守るに上手だと評されてゐる氏が、命の短いことが判つてゐる內閣の下に總監を卽座に引き受けたのは解することが出來ない、などゝ口々に批評したものであつたが、二三日すると人が囃したやうに內閣は瓦解した、中央政府の役人共は矢張り三日天下の總監だつた、馬鹿を見た、惜しいことをしたと、騷いだが、矢張り噂のやうに總辭職の置土產として貴族院議員に勅選され、復々役人共を騷がして今は官人羨望の的。成功した模範的官人と爲つてゐる。

氏が此模範的幸運を贏ち得る迄には氏の從來の態度に一大變革があつたことを見逃す譯には行かない、氏が平田伯に見出されて娘さんを貰つてから、伯の秘書官であつた塚本淸治氏を兄貴のやうにして何事も相談したものだ、從つて氏には常に憲政會系——民政黨系の影が映つてゐるやうに見えた、であるから氏が警視總監に爲つたとき、都下の新聞は筆を揃えて田中內閣の人事行政としては不似合な人選だと褒め立て好評を博したにも不拘、東京府會——尠くとも政友會東京支部の爲には氣に喰はぬ總監として反對の意思を表示し、警察費を削減するとかヤレ脫黨するとか、隨分厭がらせの態度を見せたのも、矢張り世評の夫れを物語つてゐるやうである、從つて氏の官界から政界への進路は憲政會——民政黨的色彩から脫して政友會へ轉したのだ、或は政友會內閣が成立すると氏は直にゼネーブに開かれた國際勞働會議に出席の爲め渡歐の途に就いた、その時某昵懇者が、內閣が變つたのに社會局



長岡隆一郎氏

を留守にしても大丈夫かと言つたら、田中内閣は決して私を動かさないと豪語したそうだ、であるから山縣公――平田伯と長閥とは結合してゐて、氏も亦政友會系の人だつたが其の色を表はさないで、官界を旨く泳いでゐたのだと言ふ人もある、そうとすりや田中首相から直接交渉を受けて兄貴の塚本氏に相談せずに警視總監と爲つたのも譯あることだが、私は夫れを半信半疑に思つて矢張り前の說を信じて居る。

モー一つ變つてゐることは、常に現在の既成政黨は前途餘命の無いもので、近く無產大衆黨が出現して天下を取ることは必定ぢや、自分のやうな貧乏人は是等の無產者を引きつれて所謂民衆政治を行ふのだと言つた氏が、資本家的既成政黨に這入つたことだ、氏は常に惰性的態度を排して何事にも自分の創造意を反映せしめやうとする、之が氏の特長であつて何人も追隨することの出來ない點だ、無產黨員からは兎角の非難を受けたにしても、社會局長官として資本家と無產者との中間に介在して、我國の社會政策に新味――氏の抱負を表はさむと力めた、之を見てゐる私共は氏が適當な社會政策を樹立して無產者の親分となること、必ずしも不可能でないと信じてゐた、氏に所謂將來の勞働大臣を所期したのであつたが、之を裏切つて既成政黨に這入つたのは僕等に解することの出來ない點だ。

氏は當世稀に見る熱血男兒だ、警視總監に爲つたときも彼の伏魔殿と言はるゝ警視廳を思ふ存分に改革せしめて、府會や市會の醜議員どもの行動を矯正させたかつたが、內閣の交迭に依つて私等の希望が裏切られたのを頗る遺憾とする、ばかりで無く氏のやうな働き盛りの人を紈袴者流の域に入れ奉つて置くことは國家の不利益だ、今は郊外砧村の成城田園都市に居住し、氏が馘首されたら百姓をすると言つて造つた理想的別邸に在つて、土を弄りつゝ社會政策の研究に餘念が無いと言ふことだ、此研究に依つて政友會の社會政策の基調が樹立せらるゝことゝ爲つたならば、氏が政友會に這入つたことも必ずしも私等の希望を裏切るものでは無かろう、兎も角氏の此後に於ける政治的生活は見

ものであろう。

○

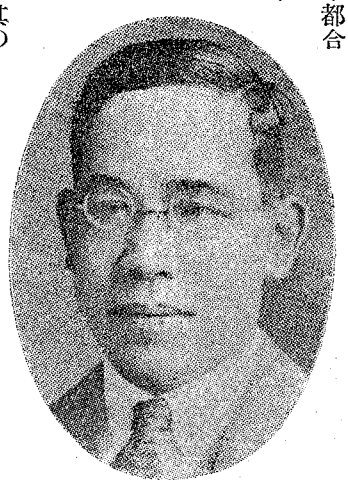
首を馘るにしても同じ省の棟内に居るのだから一言の挨拶位はあつてもよさ想なものだネー。と言つて二年前に内務省土木局長の椅子を去つた次田大三郎氏、此度は内務省地方局長として復活した、時に依つたら内務次官に爲るかも判らぬと言ふ評判もある位に氏の復活は頗る好評を博してゐる。此人も昔は本會理事として活動されたので矢張り路政圏内の一人たるを失はない。

氏は長岡氏と相似て辛辣骨を刺す慨の持主、唯だ違ふところは長岡氏が雄辯であるのに反して此方は寡默、嚴格莊重な態度は濱口總裁に一寸似てゐる、唯だ總裁が肉附きの野人的なのに引き換へ此方は中肉のハイカラ的な異型がある だけだ、某紙が此度の交迭を評して氏の地方局長は役不足だと言つたのも無理はない、前内閣が此人を馘首したのは徒に反政友會人間を殖やすばかりだと言はれてゐるのも當然だ。であるから松村義一氏なぞと前内閣時代にやつた總選擧に方つて、選擧監視委員として活動し政府與黨の心膽を寒からしめたのも、氏を馘首した祟りと言つて可い。

氏の茨城縣知事時代や土木局長時代の事蹟に就ては、路政僧君が曾て本誌で所論したから多くを言はないが、氏が川崎法制局長官と特別の關係を持することだ、曾て内務監察官時代に、反政府的地位に在つて困つてゐた名古屋市長の川崎卓吉氏を聲援して、蔭になり日向になつて氏が川崎市長の爲に盡したことは有名な話だ、兩者寡默の點で相通じてゐるから肝膽相照した所があつたのだらう、夫れが困と爲つたのだらうか當時次田氏が愛妻を失つて淋しい孤獨生活をしてゐたとき、大御所三菱の重役江口定條氏の令孃を氏に世話したのも矢張り川崎氏であつた、斯樣な譯で兩者は公私共に提携するやうに爲つてゐたのだ、其の相方川崎氏か法制局長官を不承々々に引き請けたやうな現内閣の下で、氏が地方局長位になるのは當然過ぎる程當然なことだ。

今度の地方長官の交迭は、内相の命を受けて川崎法制局

長官と大塚警保局長とが立案したと評されてゐるが、川崎氏の裏に次田氏がゐて立案に劃策したことは異動の結果が物語つてゐるやうだ、從つて復活するだろうと噂された札付きの舊老浪人が餘り浮きあがらず、馘首されるものと言はれた連中が止まつてゐるのは、知事は政務官ではない內閣が變ることに交迭せしむるのは不都合だと言ふ氏の持論が、ところ〴〵に表はれてゐる、從つて政友會內閣時代の交迭と尠し趣を異にしてゐて比較的公平な人事だと評されてゐるのも道理だ、口善惡ない連中は氏が馘首された不合理な遣り方に鑑みたのだとも言つてゐるが、常に其の不合理を矯正せむとするのが氏の持前だ、內務部長や警察部長の交迭にも矢張り氏の意見が容れられてゐるやうだが唯だ夫れを決定することに就て某大官を參加せしめ無かつた、ィヤ參加せしめたと區々に囁されてはゐるが、常に正論の命ずる所に從はうとする氏が、正論と非正論との板狹みに爲つて非常に苦惱したと人に物語つたと言ふことだ、氏の性格からすると恐らく事實でありさぞ苦しかつたであろう。



次田大三郎氏

氏の頭腦の明晰なことは恐らく省內第一人者であろう、時を移さず持出されてくる事件を解決するに、至つて敏速なものだィ、でしやう。いつも之が解決の最終に氏の口から發せられる言葉だ、併し卽座に此言葉を聞かなかつたときは、お前の意見は間違つてゐると言ふ意思表示と爲るのだ

こうなると氏の名前のやうに次から次へと質問され大抵のものは凹まされてしもふ、又所信を斷行する爲には至つて勇敢である、曾て土木局長時代にも財界に橫暴を極めてゐた東電の無理押しを徹底的に糺彈した、夫れが祟つて土木局長を罷めさされたと評せらるゝ

位に勇敢である。

氏の眼で睨まれる地方長官の内には隨分尻の擽つたいものもあるであろう、殊に緊縮をモットーとする現時代に於て放埒な頭の持主は餘程頭の緊縮から始めなければ、第二次の交迭には助からぬであろう、併し夫れは夫れとして政府の方針を遵奉して地方財政緊縮に力めらるゝのも結構ではあるが、河川や港灣の豫算と違つてバックを持たない道路の豫算を維持することの困難なことは既に御承知の筈であるから道路の改良ナンカ所謂緊急缺くべからざるものに該當しないナンテ言はずに、土木局長時代に體驗された道路改良費難を想ひ出されて、餘りに辛辣味を發揮せずに同情ある措置を採つて貰ひたいものだ。

○

土木局長は誰だろう、赤木(朝治)さんだィヤ松本(學)さんだと、安達内相の肚の裡がまだ極つてゐない先から騒いでゐたが、噂にも上らなかつた岡山縣知事の三邊長治氏が飛んで來て一寸人を驚かした、土木局長就任の挨拶に、緊縮政策を採る時代の土木局は非常な難所だ、併し之に處して行くには諸君の援助に倚らなければならぬ、だから意見があつたら遠慮なく言つて貰ひたいと、言つたそうだ、實際緊縮時代の土木局は慘々なもので、曾て長岡氏や次田氏の土木局長時代も矢張り消極主義の時代であつて、長岡氏は自ら繰延削減居士とまで言つた位に頭を惱まし奮鬪されたものだつた、今の時代は金解禁を前提としてゐるから其の緊縮振りは一層深刻であつて土木局長の働きは一層困難だ

氏は大正六年に大阪府理事官から内務省地方局事務官に轉じて來て、十四年八月に山梨縣知事に轉ずるまで約八年間内務省の飯を喰つた人だ、地方局時代いは隨分議論家として知られ、當時次官であつた今の小橋文相あたりにも隨分遠慮會釋なしに立てついたものだ、小橋さんが議會でガリバン刷りの説明書のことで小言を言つたとき、細かく書かせば讀み悪い、大きく書かせば大部のものになるつて言はれても、ガリバン刷りには何號活字と言ふやうな型が無いのですよと、言つた調子の應報振り痛快味がある、詰り

自分の信ずる所を直言するのが氏の特長だ、意見があれば何でも言へ俺も言ふと云つた意氣込だ。

前内閣時代には秋田内務政務次官の故郷德島に知事をしてゐたが、其の部下には秋田氏の乾分と噂されてゐる、山下謙一が内務部長をしてゐて、氏の行動を監視するやうで遣り惡くかつたらしいが、氏は矢張り本省育ちで誰が何と言はうが理屈が命ずるやうに働くので餘り秋田氏のお氣に入らなかつた、其の勢であろうか氏を岡山に追ひ出し、否な榮轉せしめて其の後釜に山下を知事にしたのだ、氏の持する硬骨の性が幸したと言ふものだ、其の硬骨が又幸して難所の土木局に入れても大丈夫だと見られたのだろう。

土木局の豫算は殆と内務省豫算の大部を占めてゐて、地方の豫算に較べたら隨分尨大なものだ、で假令一割を減ぜられても地方豫算の有力な一歎に屬する豫算を削られたと同額に達する、聞けば折角前議會の協贊を經た本年度豫算も、議會の意思に拘はらず其の實行額を制限して緊縮の實を示すそうだ、夫れが假令議會無視の譏をうけやうが、そんなことには頓着しないと言ふことだから土木事業豫算に受ける影響も相當大きいであろう、此間に三邊氏が處してどの位の程度に喰ひ止めるかは蓋し氏に對する試金石であろう、豫算の關係を離れて見ても權益の伴ふ水利權の處分や埋立乃至は軌道の特許等で隨分政黨的に行動せなければならぬ厄介物がある、又部下にも勅任官の技術官が十數人ゐて是等の統御に就ても他の局長と違つた惱がある、私等は氏の手腕に信賴して今は何事も言はない、が併し世上多大の歡迎を受けたあの產業道路補助豫算も、政友會が餘り囃し立てたお蔭で民政黨では眼の敵にして潰してしまふと言ふことだが、いかに夫れが黨勢擴張に使はれたと言つても、產業進展の爲に道路の改良の必要なことは言ふ迄もないから、黨勢擴張に使つたものゝ罪は罪として別に考へ、此豫算だけは維持して貰ひたいものだ。

○

浮草稼業ナンテ人は言つても、人生前途無窮……と言ふ言葉があるぢや無いか、眞面目に事務を執つてゐても

夫れが變に觀られて、時の內閣次第で井戸の釣瓶のやうに上つたり下つたりするのは現世態だから仕方が無いぢや無いか、御命令であらば何處えでも行くと、頗る元氣で內務省地方局長から京都府知事へ轉任したのは佐上信一氏だ、氏は本會創立の功勞者とし內務省道路課長として道路法立案の任に方つたことは言ふ迄もない、我が路政界から忘るることの出來ない人だ。

大正五年に熊本縣理事官から內務書記官と爲つて十四年岡山縣知事に轉ずる迄の九年間內務省に在つて、事務官書記官參事官秘書官と言つた調子にありとあらゆる仕事に從事した、憲政會內閣時代に神社局長と爲つて神社法規の立案を志し漸く成案を得たとき岡山縣知事に放り出されたのだが、氏は行く所必ず面白そうに仕事をすることに妙を得てゐる、政友會內閣と爲つて喜三郎內相のとき長崎縣知事に榮轉したが、其の中期、望月內相時代に亦地方局長として本省に戻つて來た、例の調子で此處でも局面展開の爲に新らしいことを思ひ出して地方制度の改正やら地方財政監督の制度やらを樹てた、併し何事も餘り積極的に進行しなかつた望月內相時代に、夫れだけの仕事を爲し遂げたことは假令夫れの實現が現內閣に依つて不可能に終つたにせよ、夫れだけの仕事を爲し遂げたのは氏の功績と言つても可いであろう、口善惡ない連中は其の功績を同鄕の先輩望月內相がゐたからだと言ふが、或は夫れも幾分か手傳つてゐた勢であるかも判らないが、矢張り之も佐上氏の努力と熱心の賜であると言ふのが公平な評言だ。

此樣に內務省幹部として腕を振つたことが禍して京都落ちをやるやうに爲つたのだろう、併し夫れは餘りに氏を視るに短見である、若し今の內閣の下に地方局長の椅子に据えて置いても彼は矢張り不相變仕事すきの個性を發揮して相當の成績を收むるであろう、併し夫れと言ふのは憲政會內閣時代に於ける岡山縣知事としての手腕に就て見たら何人も夫れを肯定することが出來るであろう、夫れを望月內相と同鄕で事を共にしたと言ふ點に立脚して措置したものとすれば夫れは誤りだ。唯だ望月氏にすれば誰も知らない

內務畑に這入つて來て、賴るものゝ尠きときに同鄕の後輩を發見して夫れに萬事を相談したのは望月氏の爲には利益だつたかも判らないが、佐上氏に採つては或は迷惑だつたのかも判らぬ。

望月內相に接近した勢では無いであろうが氏は非常に部下を愛護する美點の持主だ、隨分永く官界を泳いでいるが未だ曾て部下を馘首したことを聞かない、人は無能と言ふてゐやうが一度自分の部下となれば夫れを養成してかゝる、夫れでもまだ駄目な場合は夫れ相當の役目に就かしむる方法を採つてゐる、其の邊は實に利口すぎる程利巧だ部長級の交迭が發表されたとき、あの顏振れで甘くやつて行けますかと尋ねた人があつたそうだが、イヤ御心配は無要だ左右兩翼に抱き込んで養成しますと言つたとやら、併し內閣やら鐵道省さては警視廳とまで縱斷的に官界を走り廻つた有名な品川君や、民政黨視せられてゐる井上君を孵化する迄には、一と通りの骨折では無かろう、氏が抱えてゐる翼の下からチョイ〳〵手や足を出して惡戲するであろうが、夫れを例の調子で熟して行くが頗る疑問だ。

佐上信一氏

氏の轉任が京の都大路に傳へられたとき、民政黨京都支部は排斥の決議をして之を容れなければ、例の慣用語を弄して脫黨するとまで意氣まいた、併し中央から此騷ぎを見てゐるといかに最眞目に見ても、內閣の成立に依つて京都支部の連中が惠まれなかつた、腹癒せとしか見えなかつた聞けば政友會一部の策士が氏の就任を喜んだ勢で俄に騷いで見た迄のことで、長岡氏が警視總監に爲つたときに東京府會の一部策士が騷いだと同樣に世の物笑の種を播いたゞけのことだ、政友系の知事が來たと言つても京都府を政友會化する譯には行かないと同樣に、

民政系の知事が行つても同しことだ、札附きの官吏は別としていま勤めてゐる官吏は政友會內閣のときにも憲政會內閣のときにも奉仕した連中ばかりだ、夫れを强て取り分け政黨色を附加するのは附加する地元民の方が惡い、由來京都人士は猜疑心が强くて尻の穴が小さ過ぎる、公平なところで言ふと佐上氏を貰つた京都府は思はぬ儲けものをした格だ、氏の行動を見た上で排斥なり贊成なりするが可いであろう。

氏の磊落振りで都人士の尻の穴をモー少し大きく矯正して貰ひたいものだ、夫れにつけては單身赴任しないで家族永住の覺悟を必要とするが子煩惱の氏は子供が幾度か學校を換えるのを可愛想に思つたのと、九人目の第二世が今や飛出さんとしてゐるので東京に家を持つと言ふことだが、岡山や長崎で習つた粹な所を京美人に見せたら、いかに夫を信賴する奧さんでも尠しは燒くであろう、用事のあるときは双方から出張するんだ何て言はずに尻を据えて京都人士を矯正して貰ひたいものだ。

行く先京都には民政黨の御大直溫前大臣やら、八ケ間敷やの元議長森田茂君がゐて隨分うるさい所だ、夫れに無產黨の發生地だけにそこにも鬪士がゐる、政友會だつて研究會の風間君等の策士もゐて、氏の一言一行を注視するだらう、各黨各派監視の中だ、例の鼻唄を歌つてゐる位に容易に治まつて行くか氏の此後に待たふ。

○

復活組で最も有利に展開したのは、福岡縣知事になつた松本學氏だ、政友會內閣に爲つて靜岡から鹿兒島へ左遷されたが、其の地位を維持することは大丈夫だと言はれてゐたにも不拘政友會內閣一部改造の爲に行はれた內相の交迭に依つて望月內相は氏をバッサリ馘首した、床次一派が全勢力を極めて超政策的超政黨的に全盛を極め、英雄故鄕に容れられずと言ふ言葉を裏切つてゐる麗兒島で、知事の力や內相の威力を以て政友會の黨勢を擴張しやうとすることは不心得なことは勿論だが又不可能事だ、夫れに不徹底であつたと言ふので氏を馘首したことは望月內相の所期に

間違があつた、此間違に依つて馘首された氏は內務省時代に建てた東京郊外洗足の田園都市に歸つて悠々と、庭園を弄つたり在官當時の書類を整理したりして、其の餘暇には尺八を習つて所謂捲土重來の機を待つてゐたのであつたが、遂に酬ひられて福岡縣知事と爲つたのだ。

資性至つて溫厚、慈父のやうな性質の持主だ、岡山縣出身官吏のタイプを通觀すると二つの異つた型がある、次田大三郎赤木朝治兩氏のやうに莊重人の襟を正さしめる型と、岡田忠彥氏のやうに溫厚で何人をも包擁すると言つた調子の型とである、松本學氏は後者の部類に屬する人で、氏に接するものが常に畏敬するのも矢張り此特點に在るやうだ、であるから萬事に就て無理をしない、曾て內務省神社局長時代に當時の參與官鈴木富士彌氏と部室を相對して執務してゐた日常話しをすることが多かつたが爲に、鈴木氏と懇意になつて鈴木氏が氏を兄弟のやうに待遇した、其のお蔭だと言はれてゐるが遂に靜岡縣知事に榮轉した、鈴木氏の地盤である靜岡縣に行つたのであるから普通の知事がやるやうに、大に鈴木氏の爲に活動するであろうと言はれてゐたが、公と私とは別物だ、いかに賴まれても社會から曲つたと觀られることは出來ないと言つて、公正に縣治に力めたので後日鈴木氏からも睨まれてゐると言はれた位に無理なことをしない人だ。併し之が政黨的色眼鏡を透して見れば不徹底と話される所以であろう、が何れが正當視すべきであるかは言ふ迄もない、唯た夫れ等のことに胚胎して氏の進退が左右せられものなら夫れに從つて滿足しても可い。

親に孝を盡すことも亦有名だ、四十四年帝大を出るまゝ親に心配をかけた、之から俺は夫れに酬ひなければならぬと言ふので愛知縣試補の所謂見習時代を過して秋田縣警視に榮轉したとき、縣下に在る××溫泉は母を保養せしむるのに可い處だと言つて其處に迎えたが、溫泉附近に、大地震が突發した、その時は暗夜の山路十數里を匍ふて避難してゐる母堂の所在を索したと言ふ位に親孝行だ、馘首されて後の浪人時代も、母堂が夫れを心配されるのを苦痛に病

むだと言ふことだ。親の前で兄弟揃つて清元を唸つて親に孝行したと喜んでゐる自稱親孝行とは格別の相違があろう人情大臣も氏の親孝行を知つてゐたなら恐らく馘首しなかつたことであろう。

性溫厚だが非違の事件に遭つたら溫顏は忽ち嚴肅な顏に一變して夫れに反抗し飽く迄も矯正せむとする斷々乎たる態度を持する併し夫れは容易のことで顏に出さない一度之を出せば日常の溫厚主義に逆比例的に深刻味を增加して來る、警察講習所教授時代に塚本清治氏に見出され內務事務官として道路課長の職に在つたとき、永年に亘つて內鐵兩省の懸案であつた軌道法の立案に從事した、兩省の役人が啀み合つてゐては到底此立法をすることは出來ない、唯だ松本氏の溫厚的態度に依つてのみ解決するものと言はれてゐたが、其の通りに兩省が圓滿に協調して法案を立てた、啀み合の原因と爲つてゐる兩省の權限の分配に就ては最後に解決することゝ爲つて、兩省協議會を開いたとき、氏は立案した當初からの審議の模樣を一々指摘して會て是れ迄に見なかつた論議を立てゝ鐵道省の主張を片端から非難攻擊して遂に內務省意見の通り解決せしめた、其の奮鬪振りは法案審議のときと餘りに猛烈深刻味を帶びてゐるので、之に對抗してゐた鐵道省の連中も松本君はアンナに理論家と思つてゐなかつた、と後悔したやうに熱し來れば別人のやうな男性的奮鬪味を見せる、日常何事にも頑ばつてゐては駄目だ、此處ぞと言ふ所で一彈を投すれば鬪爭は常に勝を占めると言つて、路政僧なぞを訓戒指導したそうだ。夫れ程の熱血味の所持者だ。

氏馘首直後に行はれた總選擧のとき、舊任地であつた靜岡縣の有士は氏を候補者に推して出馬を慫慂したが、僕を

松本學氏

誠つた內閣に向つて矢を射るやうな愚をなさない、誠つたもの誠られたもの何れが可いかは世間が判斷して呉れる時機があろうと言つて、洗足の田園都市に納まつてゐて動こうともしなかつたが、同僚縣忍氏が理不盡に退官せしめられ、靜岡縣から出馬することに爲つたとき、其の人事行政の餘りに不公平なのに憤慨して縣氏の爲に應援演說をやつて東奔西走大に力めた、縣氏は不幸落選したが、松本氏應援の爲に敵黨をして狼狽せしめたものだ、松本氏が選擧應援をやつたと言ふことを聞いたとき、その眞否を疑つた人も隨分多かつたが熱血的奮鬪力を持つてゐる氏としては蓋し當然な遣り方だ、政友會內閣の某大官が、松本君ナンカ眞面目な事務官的知事を誠つて徒に現內閣反對の聲を大きくするのは吾が黨に取つて大きな損害であるのに、そのことも知らずに人事を決するのは間違だと言つてゐたが、大臣傍近者二三のものゝ、話に聞いて人の進退を決することは愼むべきだ。

任地福岡は九州の一等縣、政友會の有力な地盤だが、民政黨の鬪士中野正剛君等がゐて之も亦侮り難い勢力を持つてゐる、淺原健三や龜井貫一郎等の勞働黨の行動も亦輕視することが出來ない。是等の連中を相手に縣政を執行することは困難だが氏の人格と手腕とを以てするときは左程でも無かろう。

○

內務事務官兼內務書記官鐵道書記官復興局書記官と言ふ長い肩書を持つて內務省道路課長をしてゐた丹羽七郎氏が岩手縣知事に出た、氏は明治十七年の生れだからもつと先きに知事位には爲つてゐる人であるが、東北大學の農科を出てから目的を變更したものか京大の法科に學んだ關係と、內務書記官時代に病氣で一年遊んだ關係で今日まで延びてゐたやうな譯で之も當然の榮轉と言ふべきだ。

氏の悠揚迫らない態度と頭腦の明晰とは省內一種の異彩を放つてゐた、事務官や技術官が丹羽大書記官と言ふ敬稱を奉つたのも矢張り氏が特殊の人格を具へてゐた勢だ、併し夫れは明治の初年に當つて會津藩の士卒を引きつれ北海

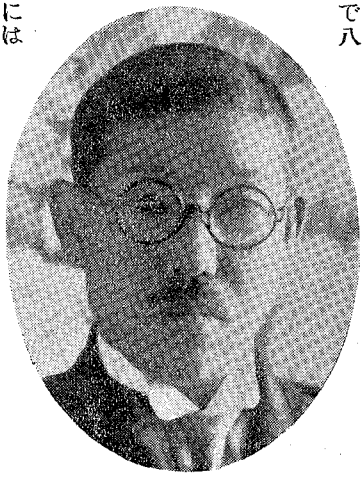
道開墾事業に從事して、廢藩當時の失業者を救濟すると同時に北海道の拓地殖民に盡粹した嚴父が氏を訓育したお蔭だ、短的に言はゞ親讓りの特點である、何でも嚴父が氏に對することは其の名のやうに實に嚴格を極め、所謂昔士族的の教育を施されたものだ想だ、從つて氏の行動の內には、成る程あれが會津藩士の血統を引いてゐる點かと肯かれるやうな場合も多々あつた、榮轉の報知を手にしたとき、去年亡くなられた嚴父が居られたなら嘸喜ばれたであろうと言へば、イヤ俺の親父は僕が何になつても喜ぶ親父でないと言つてゐたが、負けぬ氣の硬骨漢であつたらしい、氏も亦其の血統を引いてゐる、大臣や次官あたりに自分の意見を提出しても一向眞劍に爲つて聞いて呉れないときなぞは、事理の判らぬ人だと言つて怒つたものだ。

頭腦の明晰なこと、無口であることは、今の次田地方局長とよく似てゐる、從つて時に人から誤解を受けて官僚式だ意張つてゐるなんて言はれるのであるが、口に出さないだけ心に萬事を極めてゐる、道路課長時代に公務の余暇を利用して著はした、現代法學全集中の道路法釋義は有名なものであつて、東大某博士が近來の名著であるから必讀せよと學生に推奬したと言ふ位に、評判が可い夫れ程に可い頭の持主だ、今の奧さんは元文部省督學官をしてゐた淺井氏の令孃を娶つて今は至つて家庭圓滿だ、近頃に爲つてゴルフの練習を始めたが、夫れ以前は土曜から日曜にかけてはいつも二人が習字と俳句の稽古をやると言つた調子で隨分あてられた人もゐる、榮轉發表の日も路政僧が今夜はお主人はお宅へは歸しませぬと電話したが一向に手ごたゑが無かつた位に諒解濟の中だ、岩手の山奧では餘り用事も無いだろうから二人のお稽古が亦復活することだろう。

道路課長時代には隨分路政に新らし味を見せた、現在の緊縮內閣の下では大きな聲で言ふことは出來ないが、例の產業道路問題でも實は氏が立案したものだ、固より此の計畫は既に憲政會內閣時代に計畫されたものだが、其の把持する主義消極政策の爲にいか樣ともすることが出來ながつた、夫れを政友會內閣のときに更生せしめたに過ぎないが、

夫れを更正せしむる爲には隨分骨を折つたものだ、今は夫れが幻滅の域にあるが、氏が今道路課長の職にゐたら例の調子で憤慨するであろう、幸か不幸か今其の職にゐないのは我が路政の爲に痛憤措くことが出來ない。

氏在職中は內務省對各省の權限爭で八ヶ間數かつた、氏も亦此爭裡に在つて克く奮鬪したもので、乘合自動車の問題、自動車專用道路の問題乃至は地下鐵道の問題と、永年未解決のまゝに放任された問題を片端しから解決した、併し氏は相手がいかに强く出ても必ず始めから强腰には出ない、理を盡し事由を辨していとも冷靜に併かも悠々と說明するのが手である、之で相手の肝を寒からしむるのであるが、夫れでも尙且つ應じないときは白刃を翳して會津武士の魂を見せるのである、鐵道省あたりの役人達で此白刃に見舞はれた連中が尠くない。



丹羽七郎氏

行く先は原敬出生の地だ、夫れだけ政友會全盛の岩手だ、地方長官が任地に於ける政黨の消長にまで責任があるものと極めた某內閣時代は格別だが、宴會の出席に官廳自動車の使用を禁止して綱紀を肅正せむとしてゐる現內閣に限つては政黨の消長なぞを强制すまい唯だ氣になるのは政友に包圍されてゐる柵瀨軍之佐君なぞが、中央に對してする宣傳だが、是も餘り心配するには及ばぬであろう、夫れこそ持前の嚴正公平を發輝して地方長官生活の初頁を飾らしたいものだ。

○

民政黨內閣の下で依願免官の辭令を貰ふのも癪だから早く辭表を出したのだが未だ發令にならぬ、と內閣交迭と同時に机を掃除して免官を待つてゐたのは、內務省土木局長の宮崎通之助氏だ、土木局長は政務官でないから內閣の交

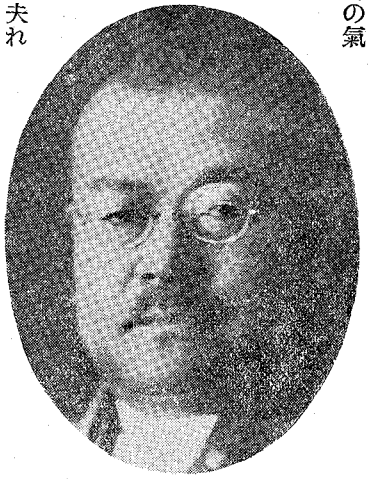
迭と進退を共にすべきでない、又そうすることは後輩の爲に困ると言はれても、世の中は理屈通りでは行けないと、サッサと退官してしまつた、夫れも其の筈だ、愛媛縣知事だつた氏を大正十三年加藤高明内閣の成立と同時に馘首したのだから、詰り反民政系の人だからだ、併し好んで其の系統に這入つた譯では無かろうが理不盡に人を馘首するから感情動物たる人間は誰でもそう言ふ風に動くのは當然だ、であるから無理に人を馘首すればする程夫れだけ民政黨反對の國民が殖えて行くものと算盤を彈いてから人事を決すべきだ。

氏が靜岡の豪農宮崎總五氏の三男として安倍川のほとりに生れたのは明治十三年だ、今五十一の男盛り働かせばいくらでも働く時代だ、愛媛縣知事退官後約三年間夏日は安倍川に漁したり秋冬は附近の山野に獵したりして時節の到來を待つてゐたが、昭和二年憲政會内閣が倒れて政友會の天下に爲つたとき、腕の喜三郎内相に引き立てられて遂に土木局長と爲つた、つい此間一週間前に亡くなられたのぶ子母堂なぞは、氏の任官を阻止して局長位になつても家の財産を喰ふばかりだから見合はすが可いと切言されたそうだが、知事馘首の恨を晴らす野心否な意氣があつたか進んで任官した、夫れで安倍川の鮎や蒿科山の雉や山鳥が命拾ひをして喜んでゐたであろうに、いまは又命の維持に心配してゐるであろう。

任官した氏は在野三年の勢で少々世事が變態を來たしてゐるのと、始めて内務本省に勤めたので少々勝手が違つたらしかつた、が併し上には喜三郎の眼が光かつてゐるので土木局長として花々しく活動したものだ、産業道路の問題でも鈴木内相に其の效用を說き立て政友會の重要政策の一つに加へしめたのも全く氏の活動の結果と言つて可い、河川や港灣でも氏の力に依つて國費支辨に爲つたものが頗る多い、誰かゞ言つたやうに積極政策を採る時代の土木局長は藥であるにしても、大臣や次官の頭に夫れを入れるまでは、お百度を踏まなければならぬ、夫れに兎角半可通の素人論でまくし立てるから夫れを專門化せしめなければなら

ぬ所に人知れず苦心が存するのである、併し氏は、夫れを完全に力めあげて所謂政友會の產業政策の大部を組みあげた手際は普通の事務官的官吏では無い。

在官中一度執拗な脊髓病に冒され再び元の體には還らないであろうとまで言はれたが、持前の氣隨を抑えて養生に力めた爲か全快した、併し茲に困つたことが發生したと言ふのは親方喜三郎內相と望月內相との交迭であつた、此交迭に依つて氏を孤立の地位に立たしめた、凡人は他人が拵えた仕事は他人のものとして餘り喜ばない、何か夫れ以上に歡迎さるゝ仕事を自分のものとして考案しやうと力める、望月內相は夫れであつた、鈴木が手附けた女なら鈴木が始末すれば可いと言つた調子だつた、であるから局長の地位は非常に苦しくなる、產業道路豫算だつて大藏大臣が認めなければ夫れ迄だと言つた調子、此大臣の下に在つて前大臣以來續行して來た仕事を完成するのは迚だ難事だが、氏が夫れを爲し遂けたことは吾が路政史に特筆すべきものゝ一つだ。



長谷川久一氏

孤立時代に爲つてから難問題が續出して來た、夫れは望月內相就任のときに、內務省は各省に較べて智者が集つてゐるが、其のことは內務省が各省を掌るものではないと言つて、暗に各省に對する內務省從來の態度を攻めたのを、各省の役人が聞いた勢か、夫れとも人情大臣が人情話しに耽つてゐる間に內務省の權限を縮少しやうと考へた勢か判らないが、兎も角權限爭議が起つて來た、發電の原動力にする河水の使用は水の立體的使用ぢやなんか譯の判らぬことを言つて夫れを遞信省に移そうとする、用排水幹川の改良は農業上の見地から考へなければならぬから其の所管を農林省に移せと言ふ、乘合自動車は

道路の上を走るものではあるが、道路に關係が無いから鐵道省へ移せ、自動車の所管を移す以上は自動車專用道路も鐵道省で所管すると、まるで、蜂の巣を突ついたやうに各省が蜂起して來た、此要求に對案を附して人情さんに伺を立てると各省が言ふのは尤もだ、元來內務省は仕事が多過ぎるから各省へ割愛せよと言つた調子、併し河川行政は治水政策から割出され自動車乃至專用道路は交通政策から割出されてゐるので、夫等の政策に立脚して合理的に行政せなければならぬもので、出鱈目の情實論では解決出來得るものではない、上は情實下は理論を主張してゐるときに氏は飽くまで理論に從つて之を解決せむと力めた、否な其の一部は既に解決された、憲政會內閣時代から問題と爲つてゐた、あの自動車專用道路の所管問題でも、遂に法制々度審議會の議にまで上つて論議されたが、その時被告の地位にある宮崎氏は會議に列席して、自動車專用道路發達の原由から其の性質を極め歐米の之に對する政策を論じ、我國の將來に於ける方針までを說いて、居並ぶ議員連やら原告の地位にある鐵道省の役人共をして、之に對抗する言葉なからしめ遂に內務省の專管に決定せしめた、其の奮鬪振りは今も尙眼のあたりにあるやうだ、宮崎氏が去らむとしたとき、正に系統を紊されんとした土木行政を此處まで維持して吳れた其の效績は、終生忘るゝことが出來ないと言つて氏の手を握つて泣いた者がある位に力戰奮鬪した。

氏は常に餘り理屈を言はないが、相手方のしたり言つたりしたことが不合理である場合、寧ろ自ら進んで喧嘩して迄其の非を攻めんとする、八ヶ間敷かつた彼の福島縣下只見川の水利權問題でも、遞信省の桑山次官やら村井電氣局長を相手にして大喧嘩を始め、遂に彼等をして屈服せしめ男をあげた所は、宮城縣や北海道乃至は警視廳で警察部長をした勢でもあろうが、實に手に入つたものだ、內閣の末期になつて起つた庄川水力電氣工事の處分でも、秋田政務次官が再三頼んだにも拘はらず遂に未處分に終らしめた點なぞ隨分推服すべき點だ。

腕の喜三郎とも言はるゝ鈴木氏は、政友會に無ければな

らぬ大政治家だ、日本に於ける有數の將來ある政治家だ、此ことは何人も恐らく異論の無い所であろうが、夫れにも拘はらず氏の行動に兎角の非難を聞くのは氏の周圍に居る面々が、氏を誤らしむる勢だ、私がいままで筆して來た宮崎氏を鈴木氏の周圍に置いて從來の面々を改造することが鈴木氏を益大ならしむる所以では無かろうか、又夫れが宮崎氏の手腕を活かし大ならしむる所以である、今の內閣もいつ迄續くか判らないが、何れ又政權が政友會の手に歸するときが來るであろう、夫れ迄は自重され魚や鳥にも餘命を與えて政治の新傾向でも研究して古い言葉ではあるが捲土重來を期せられたい。

○

ワフフワー知事を罷められたヨ、と無造作に笑つて舊任地靜岡から東京へ戻つて來たのは長谷川久一氏だ、馘首組の知事は人に出會ふ每にいろ〳〵辯解がましい言葉を造つて不平の嘆聲を漏すのが常態だが、我が長谷川氏に限つては悠揚迫つてゐない、誰か何處に馘られてゐるのだろうと言つた調子で、母堂仲子刀自の許に歸つた、是は多くの馘首知事と違つて稀に見るブル階級だからだ、だからブロ階級から見ると幸福な人だ惠まれた人だと評するより外に言葉は無かろう。

明治四十年に帝大を出て直ぐ內務省に這入つて見習格の內務屬となつた、普通なら見習期間の滿了次第に地方廳へ旅出さるゝのだが、吾が長谷川氏はそんな苦業をするに及ばなかつた、屬官から直くに內務書記官內務省參事官と言ふ風に、さながら順風に帆をあけて官界を走つたやうな感があつた、誰か惡戲したものか夫れとも可愛兒に旅をさせと言ふ考であつたのか知らないが、內務省から出て三重や千葉の警察部長を勤めなければならぬやうにした、詰り中老格の地方見習をやらしたが、再び花のお江戸へ戻つて來て警視廳保安部長と爲つた、次で岐阜縣內務部長と爲つて、小石川と岐阜との間を往來してゐる間に再び官場の出生地本省に戻つて、內務監察官兼參事官と言ふやうな官を得て內務省河川課長の職を採つてゐたが、名土木局長と

言はれた堀田貢氏の後を襲つて土木局長と爲つた、あの有名な大正震災のときは帝都土木事業の復興に努力したが、夫れも餘り酬ひられ無かつたのだろうか、山本内閣のときに石川縣知事に轉ぜしめられ、夫れから和歌山やら長崎を經て靜岡に轉じたのであつた。

氏の夫人は神戸の大御所と言はれた有名な小寺謙吉氏の令妹だ、是等の私的關係を捉えて氏は憲政系だ、イヤ此頃は反民政系だなぞと評する人もあるが、夫人の本家の所屬してゐる、政黨で娘をやつた先きの主人公までを政黨化色するのは無理だ、イヤ夫れ位なら憲政會内閣のときにモー少し榮轉せしめらるべき筈だのに、加藤高明内閣のときに和歌山縣に轉任せしめたのを見て肯定されやう、であるから小寺氏が民政黨から除名され憲政一新會を作つて反民政黨員と、爲つたにしても夫れに原因して馘首された譯でもあるまい。

氏は非常に友情に厚い人だ、石川縣知事のとき政府が總選擧に熱中してゐる折も折、反政府黨として立候補してゐる京大の嘩道文藝博士と、公園を散歩してゐたとやら言ふ理由で和歌山縣へ左遷されたのぢやと言はれてゐるが、夫れは唯だ昔馴染の嘩道博士が、假令反政府黨として立候補したにしろ鹿爪らしく博士に言葉を交さないと言ふやうなことの出來ない人格の持主だ、だから憲政會内閣時代の總選擧にも、中學時代からの友人鳩山一郎君の選擧の爲に、同じ選擧區に居る關係で隨分助けたと言ふ噂がある位に友情に厚い、鳩山君が長川氏の令息等尋常小學生から鳩一——鳩一と言つて非難されたときに、あれ位鳩山君の人氣は惡いのだろうかと氏をして心配せしめた位に鳩山君を援助したものだ、夫れが或は現内閣で崇

宮崎通之助氏

つて馘首になつたのだろうか、或は政友會を罵倒して民政黨―憲政會內閣や其の內閣の下に靜岡縣知事であつた湯淺倉平氏の功績を賞揚した靜岡縣史を編纂せしめたことが部下監督不十分の責任を問はれたのぢやと言ふ人もある、併し前內閣時代に現內閣を擁護した否なせしめるやうにした其の人を馘首するやうな現內閣でもあるまい、殊に縣史の編纂なぞは知事の知る所ではない、夫れを事實上指揮監督した人が今回の移動で榮轉してゐる所を見ると評者の言は全然當つてゐない。

縣下には矢張り政民兩黨が相爭つてゐる、唯だ夫れだけならば問題は無いのであるが、政友會には政界の荒武者小泉老と松浦五兵衞の兩派が相對待して權勢を爭つてゐる、言はゞ三黨派があるやうなもので三者に滿足を與えるやうなことは不可能だ、又假令夫れを滿足せしむるやうな事をしたら夫れこそ惡政の誹を受けて、長谷川氏が是れまで持した公平振りを破壞することゝ爲つて自他共に利益とは爲らない、氏が之を無關心に過したのは蓋し氏の人格の表はれであつて、假令夫れが一時の不利益を齎しても滿足して迫す所は無い筈だ。

自然に惠まれた東海一の靜岡、冬は嚴寒を知らず夏は三伏を忘れる土地だ、從つて四時の產物はいつ求めても容易に得られる土地柄だ、是だから天下の樂園と言つて茶切り節を歌つて遊んでゐるのには申分のない處だ、其の樂園を不自然に荒すものは政黨の嗤み合ひだ、若し是に禍されて氏が罷めたとすれば、夫れは夫れで忍んで可いだろう。

氏は明治十七年生れであるから當年四十六歲の男の働き盛りだ、此んな男盛りを他動的に遊ばなければならぬのは現政界の一大缺點だ、併し詰らぬ政爭に飽いてゐる世の識者は氏の如き人を永らく遊ばして吳れないであろう、仕官して始めての浪人生活も亦氏の將來を大にする何物かと爲るであろう、だから人一倍大きな體を小さくする必要もない、將來の爲に自重して貰ひたい。